

2022年3月期 決算説明会



JTP 株式会社

Connect to the Future

2022年5月30日



© JTP Co., Ltd. All Rights Reserved.

目次

I. 事業概要	P 3～ 5
II. 2022年3月期 決算実績	P 6～22
III. 2023年3月期 業績予想	P23～30
IV. 第一次中期経営計画の進捗	P31～35
V. 参考資料	P36～41

I. 事業概要



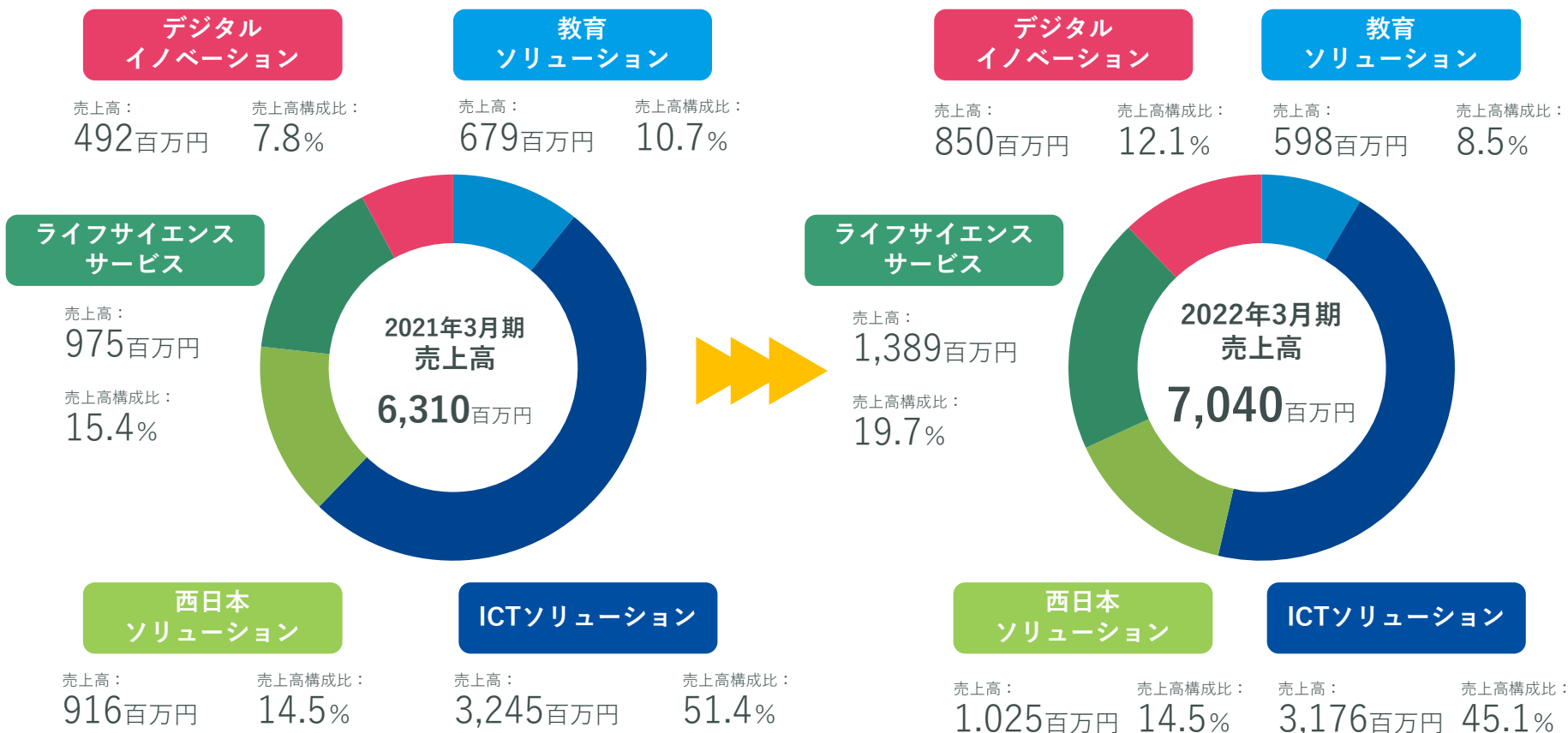


私たちJTPは2022年10月 創立35周年を迎えます

ミッションに「Connect to the Future」を掲げ、メーカーのみならず幅広い企業に対して、
情報セキュリティ関連サービスやAIソリューション、
人財育成コンサルティングなど、JTP独自の事業を展開しています。



売上高構成比前年度比較



西日本ソリューションの定義:

愛知から以西（岐阜・福井を含む）の顧客取引を示す



II. 2022年3月期 決算実績

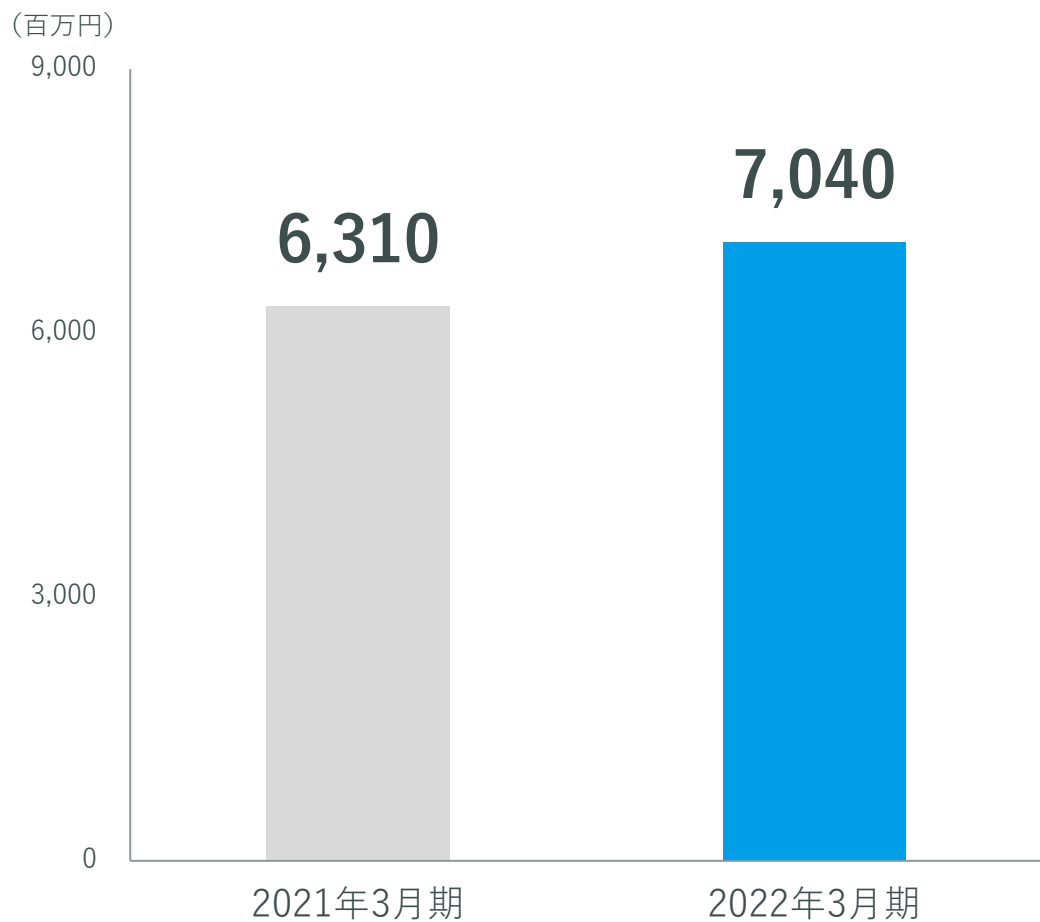


2022年3月期 決算のポイント



- ✔️ ダイレクトユーザーの案件獲得が順調に進み、過去最高の売上高を達成
- ✔️ それに伴い営業利益は、コロナ前水準（前々期）まで回復
- ✔️ コロナウイルス感染拡大の影響はあるものの、特にセキュリティ関連についての受注は好調で、トレンドはしばらく継続

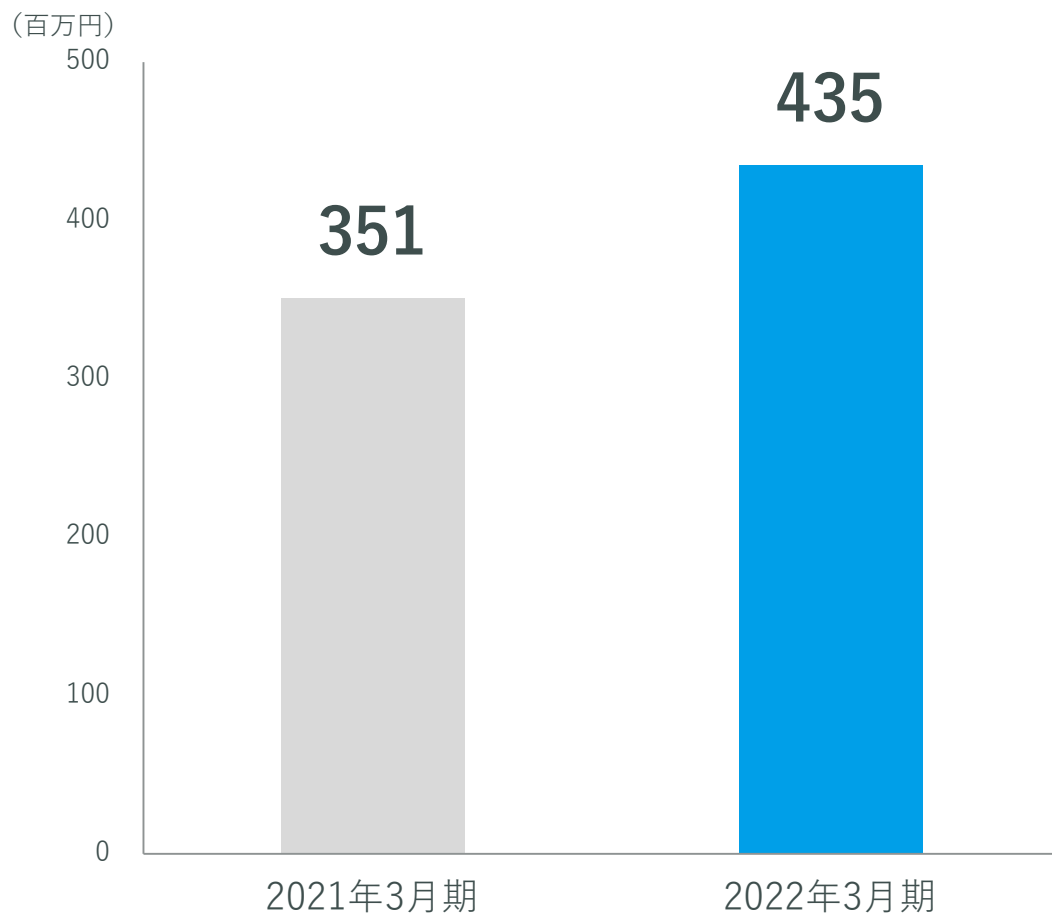
売上高



11%増収
(過去最高)



営業利益



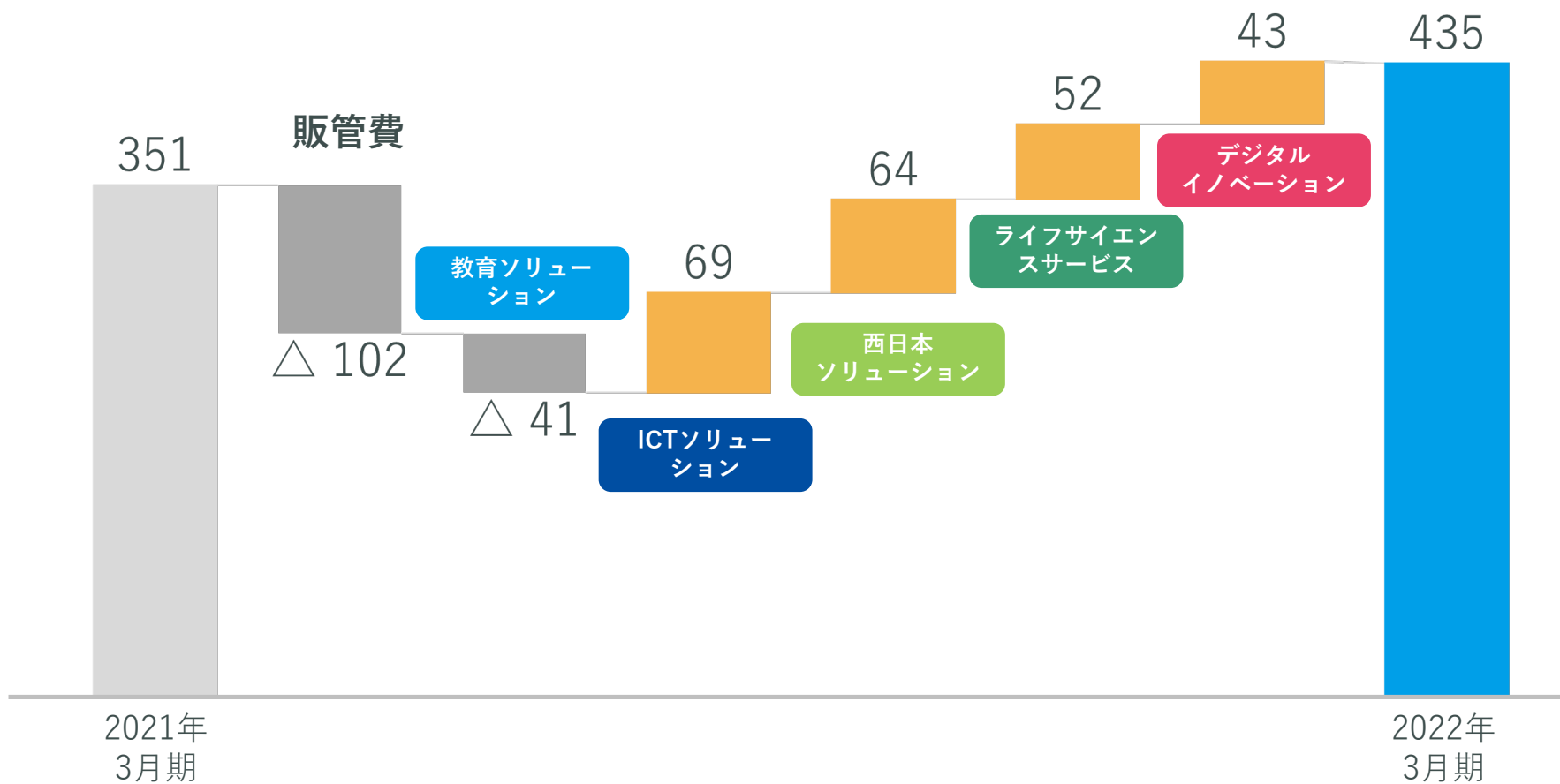
23%増益



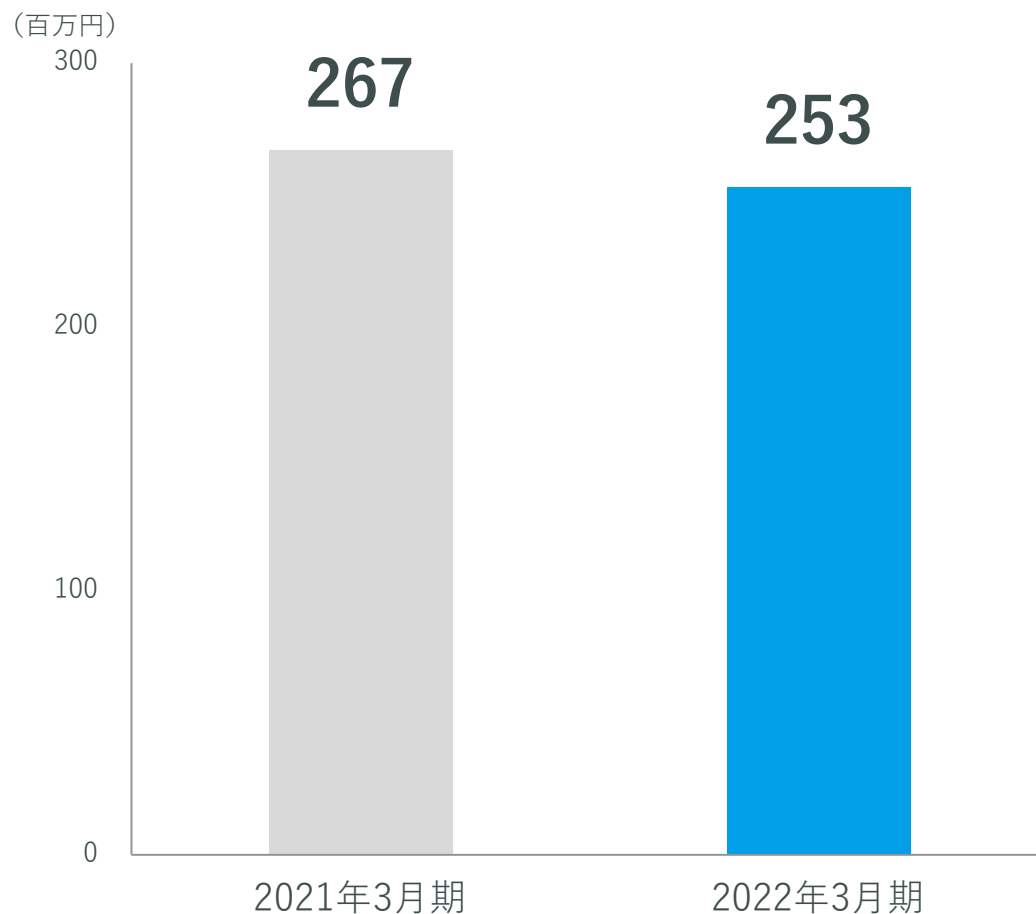
営業利益 増減分析



(百万円)

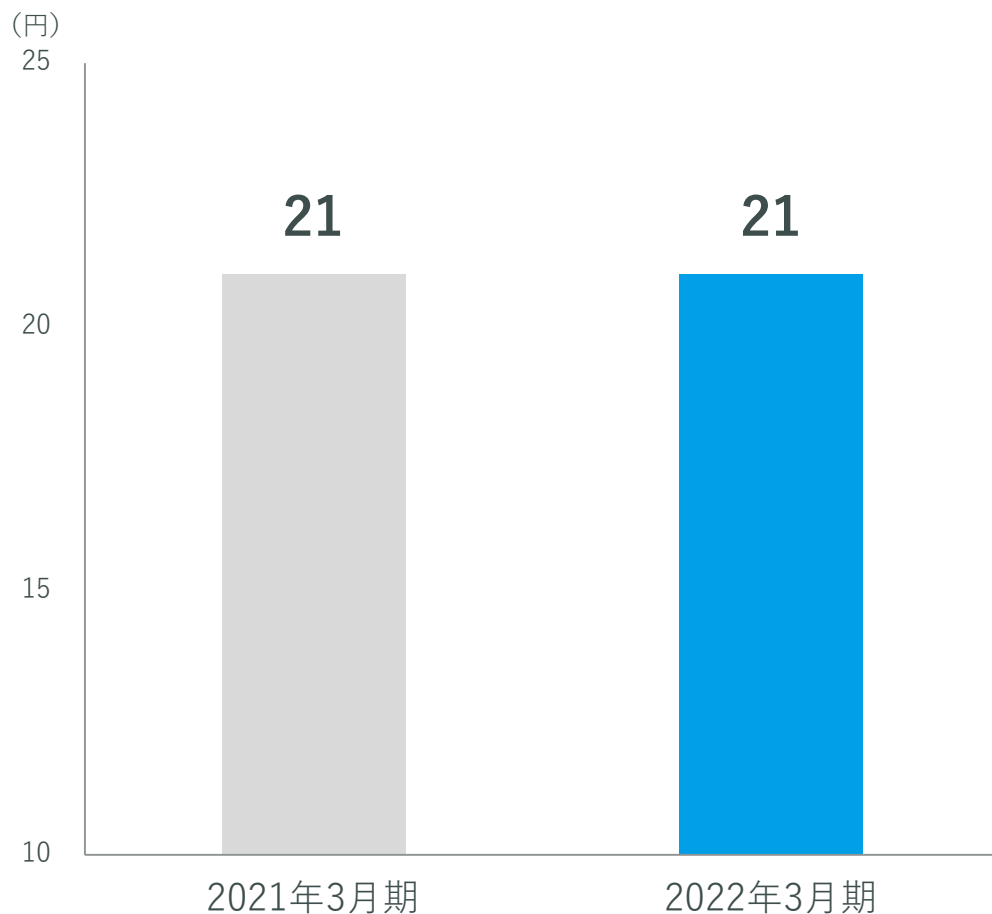


親会社株主に帰属する当期純利益



5%減益
(法人税増)

一株当たり配当金（年間）



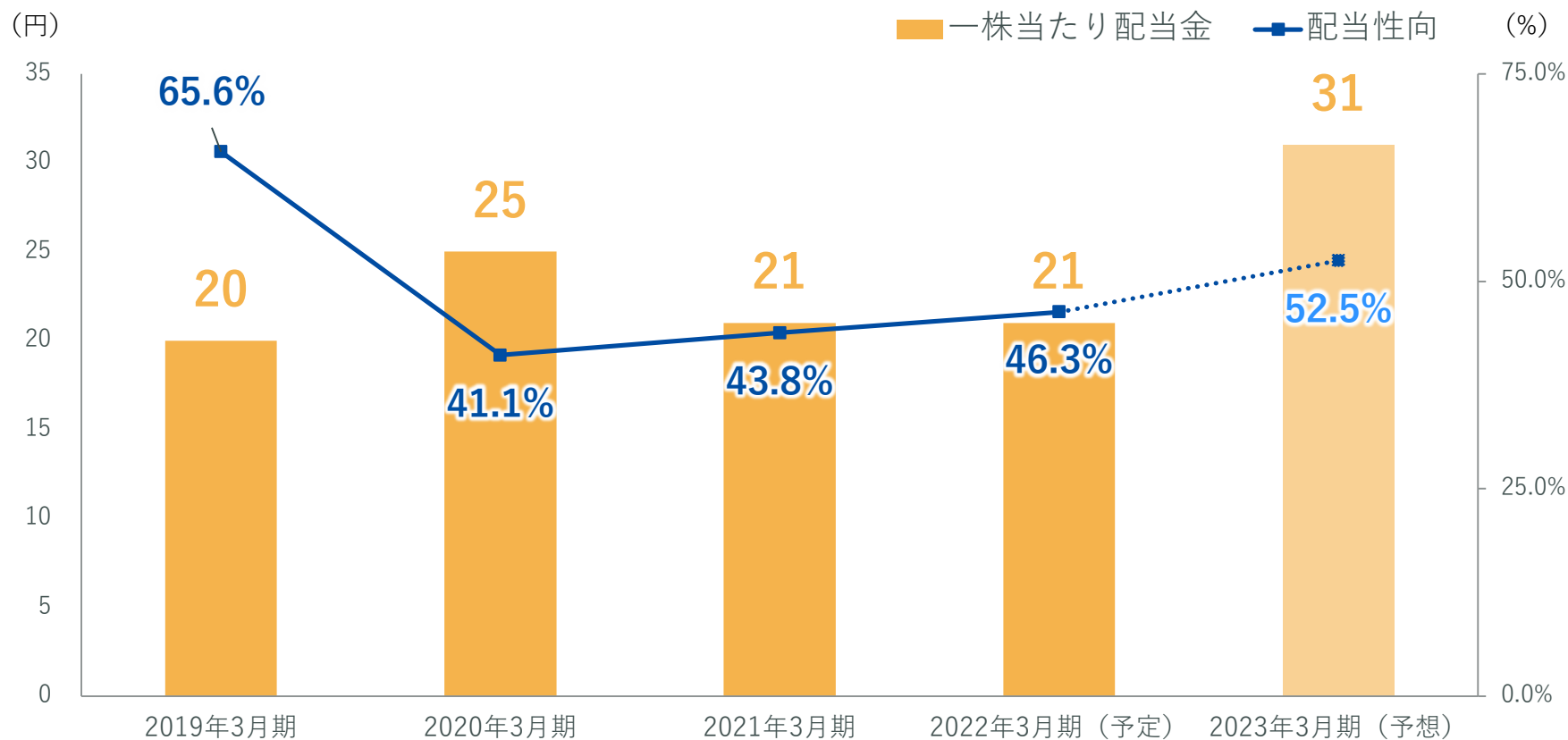
期初予想通り
年間**21**円 (予定)



一株当たり配当金・配当性向推移（年間）



高配当を継続



財務分析 (B/S)



➤ 売上の増加に伴い現預金も増加し、総資産が増加

(単位：百万円)

	2021年3月期実績	2022年3月期実績	前期比
現預金	1,899	2,228	329
受取手形及び売掛金	1,342	-	△1,342
売掛金	-	1,278	1,278
契約資産	-	215	215
その他流動資産	381	300	△81
有形固定資産	125	103	△22
無形固定資産	26	24	△1
投資その他の資産	525	417	△108
資産合計	4,300	4,569	268
流動負債	1,069	1,147	78
固定負債	617	656	39
負債合計	1,686	1,803	117
株主資本	2,638	2,782	144
その他包括利益累計額	△23	△17	6
純資産合計	2,614	2,765	151
負債・純資産合計	4,300	4,569	268



財務分析（C/F）

- 営業活動CFの変動は売上債権の減少による、
財務活動CFの変動は前期要因による

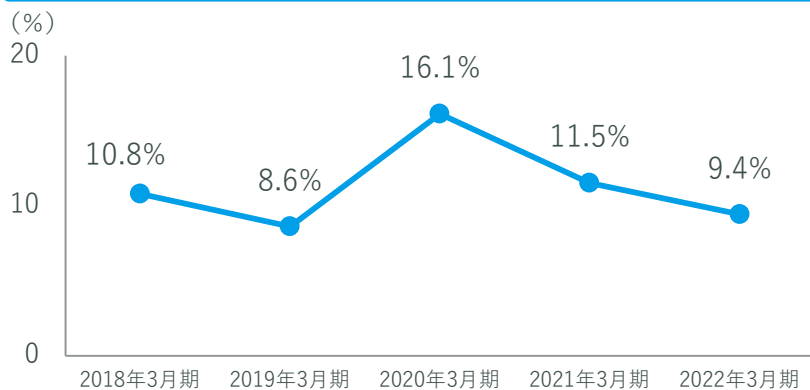
(単位：百万円)	2021年3月期実績	2022年3月期実績	前期比	コメント
営業活動による キャッシュ・フロー	200	503	303	
投資活動による キャッシュ・フロー	△75	△57	18	
財務活動による キャッシュ・フロー	297	△118	△415	2021年3月期は日商エレクトロニクス社との資本業務提携による
現金及び現金同等物の期首残高	1,476	1,899	422	
現金及び現金同等物の期末残高	1,899	2,228	328	

過去5期指標推移



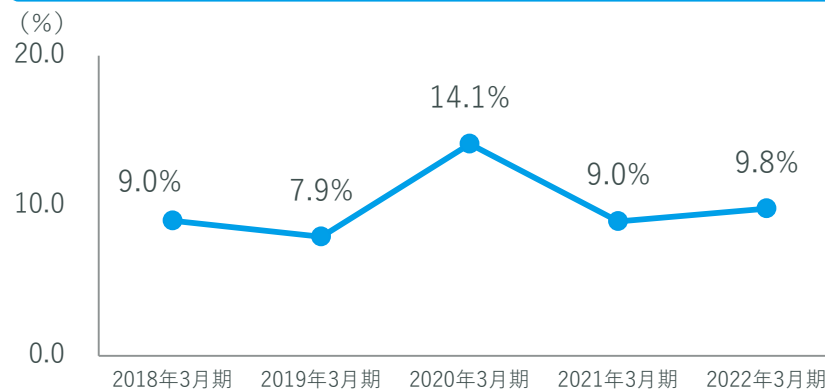
直近5期で、一定の自己資本比率を維持しながら、着実に利益を生む体質を構築。今後もこの水準を維持していく方針

ROE（自己資本利益率）



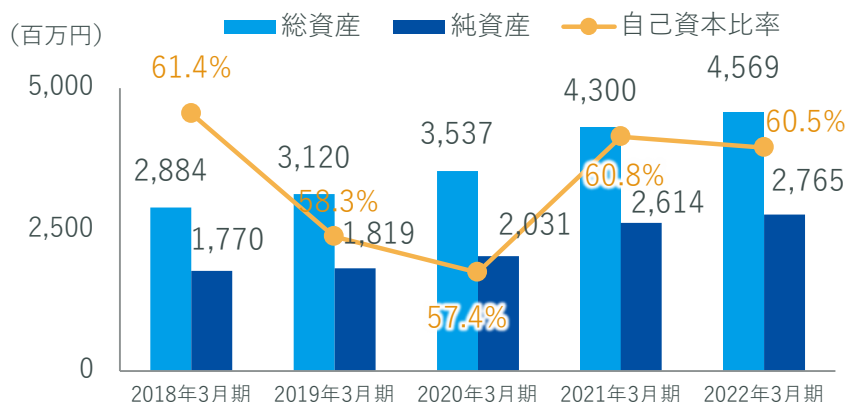
※出所：NIR提供データを弊社にて加工

ROA（総資産利益率）

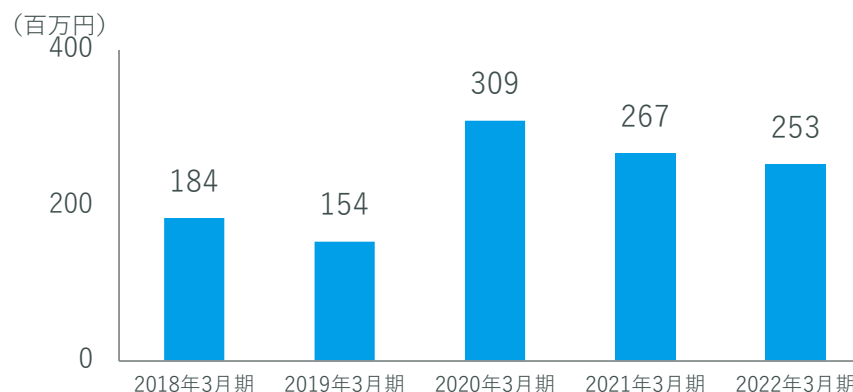


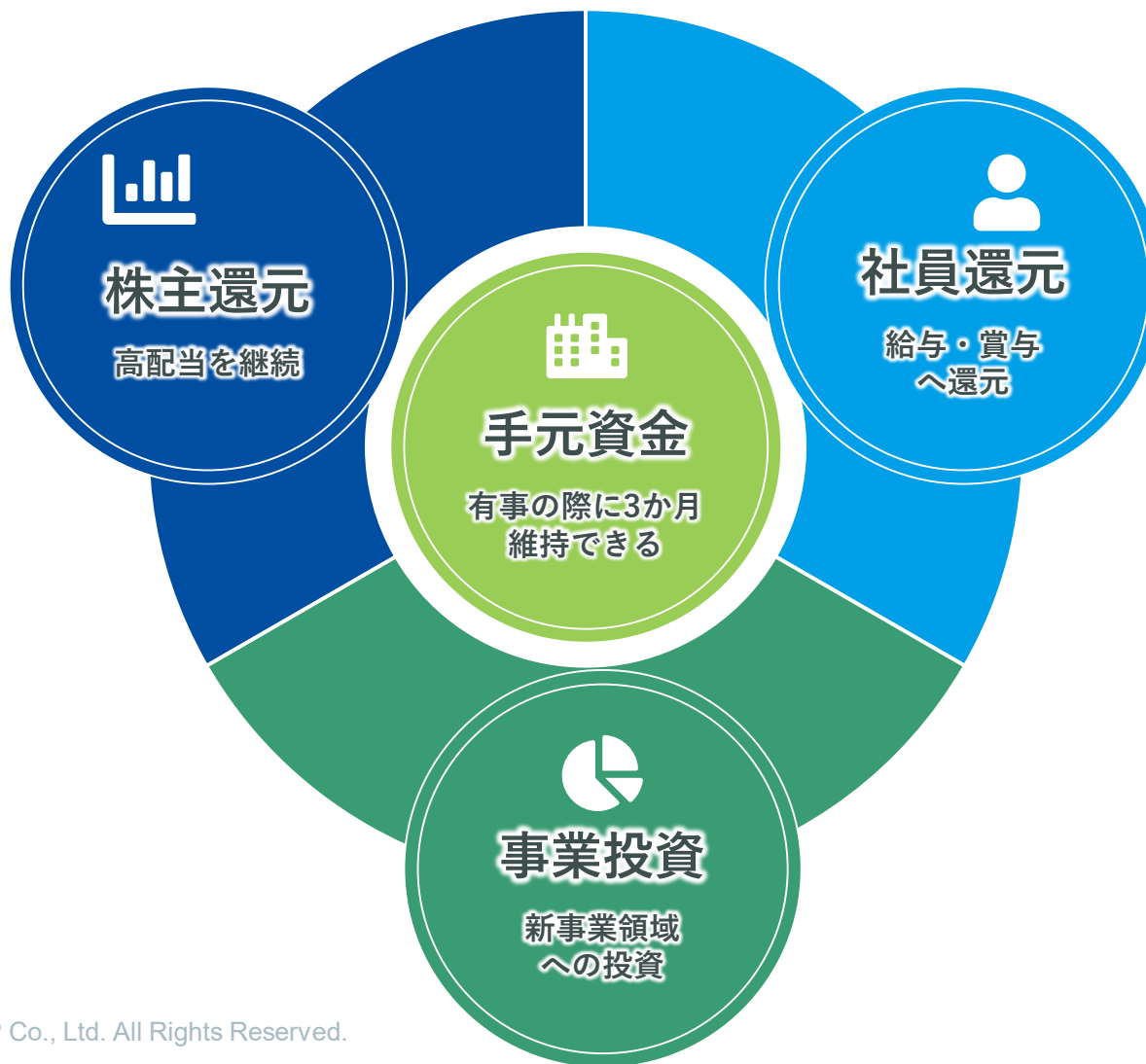
※出所：NIR提供データを弊社にて加工

総資産・純資産・自己資本比率 (%)



当期純利益



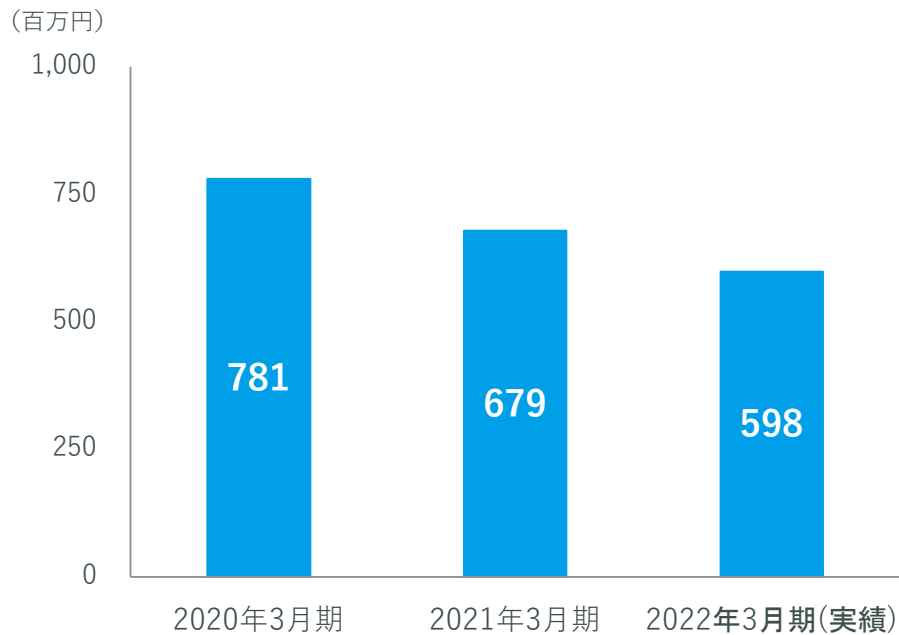




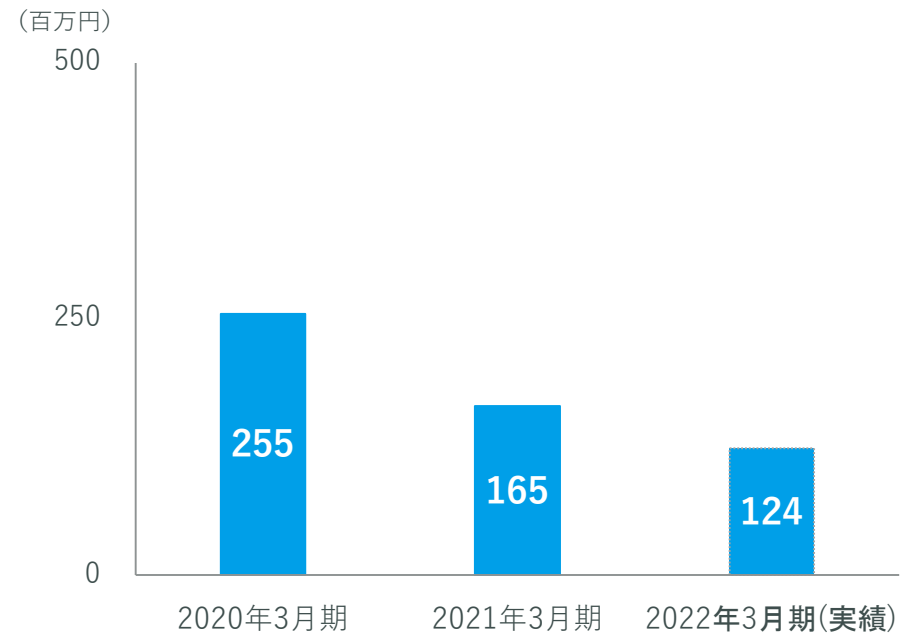
セグメント別実績（教育ソリューション）

-
- ・新規ソリューション創出（先行投資）
 - ・固定費による利益圧迫
 - ・コスト適正化は完了（22年3月期が底）

セグメント売上高（百万円）



セグメント営業利益（百万円）

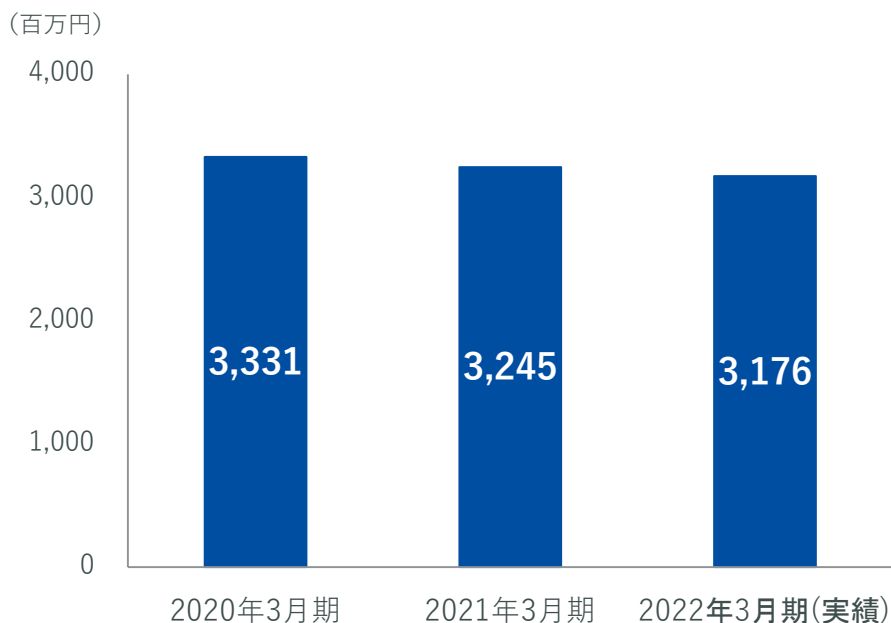


セグメント別実績 (ICTソリューション)

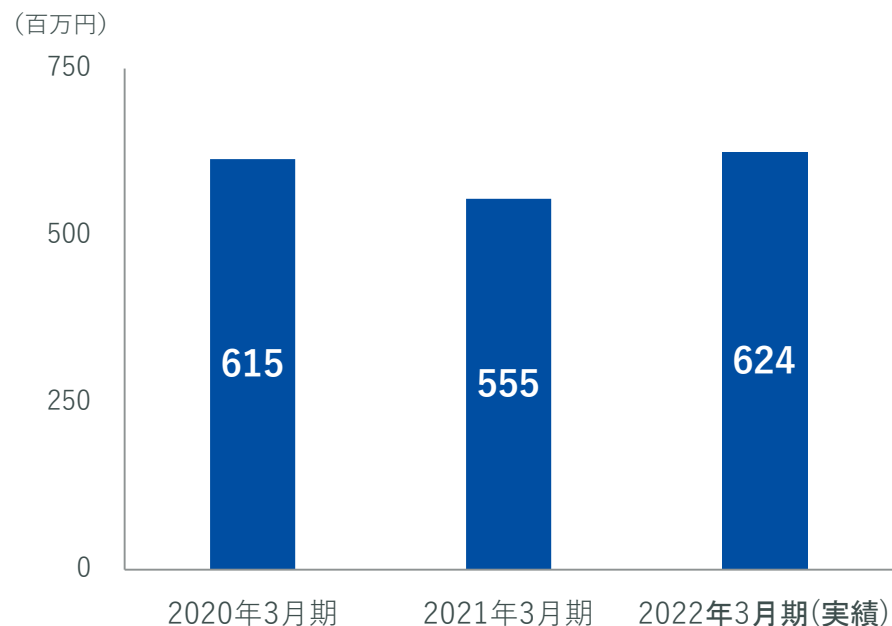


- ハードウェアメーカー向け事業の撤退
- ダイレクトユーザービジネス拡大

セグメント売上高 (百万円)



セグメント営業利益 (百万円)

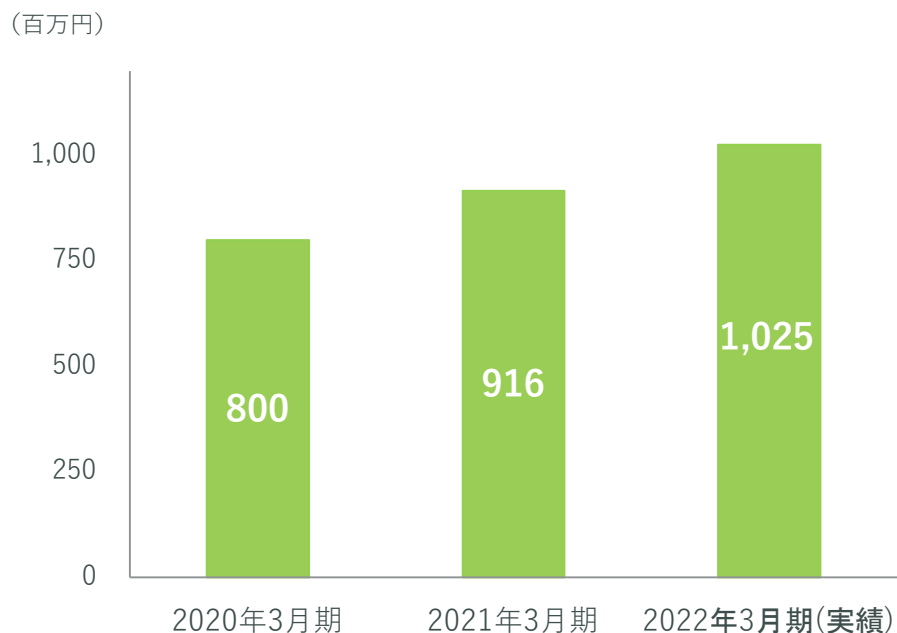


セグメント別実績（西日本ソリューション）

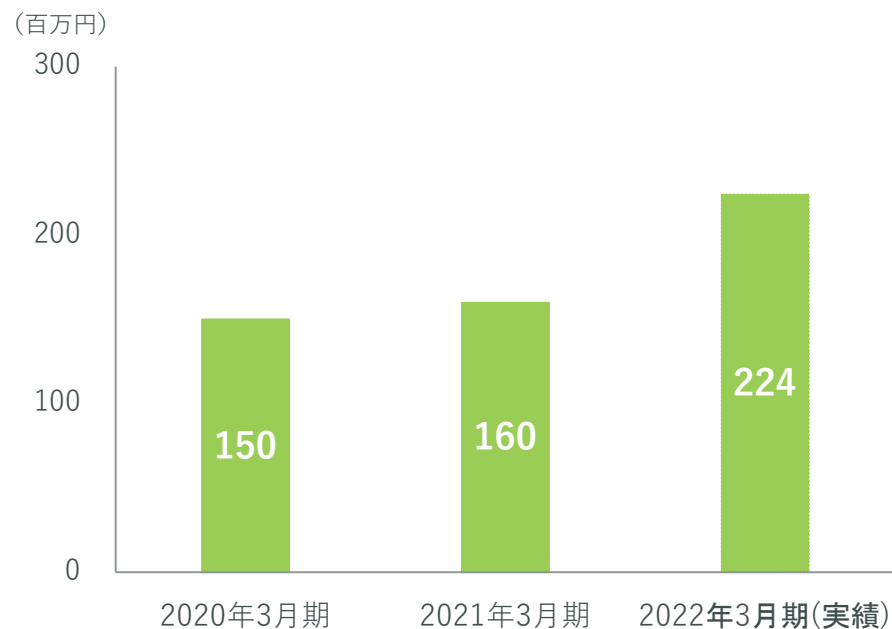


➤➤ ・九州・関西地域のICTサービス拡大

セグメント売上高（百万円）



セグメント営業利益（百万円）

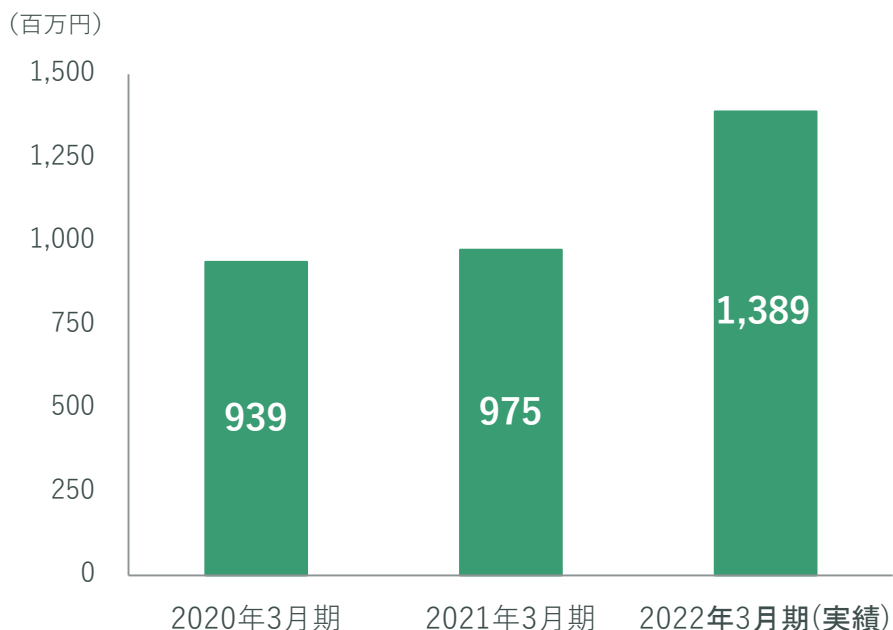


セグメント別実績 (ライフサイエンス)

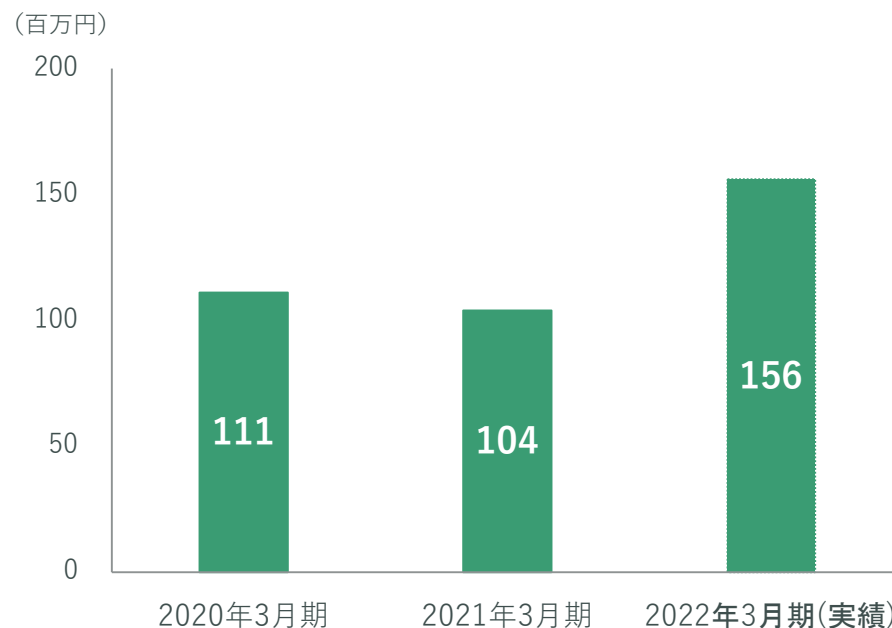


- ・ 医療・化学分析装置の保守サービス回復
- ・ 医療ICT事業の増加

セグメント売上高 (百万円)



セグメント営業利益 (百万円)

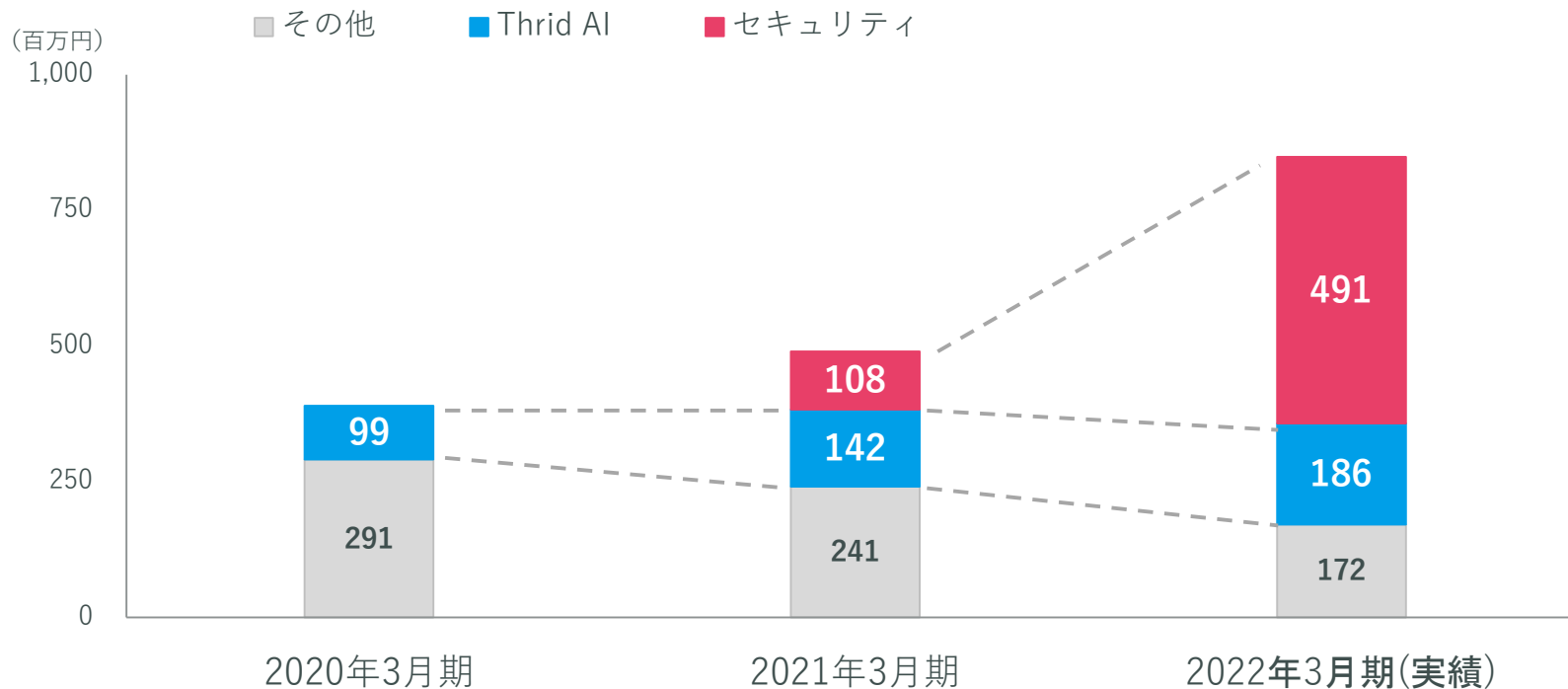


セグメント別実績（デジタルイノベーション）



- セキュリティ大型案件の受注増
- ThirdAIの受注増

サービス別売上高推移（百万円）



Ⅲ. 2023年3月期 業績予想

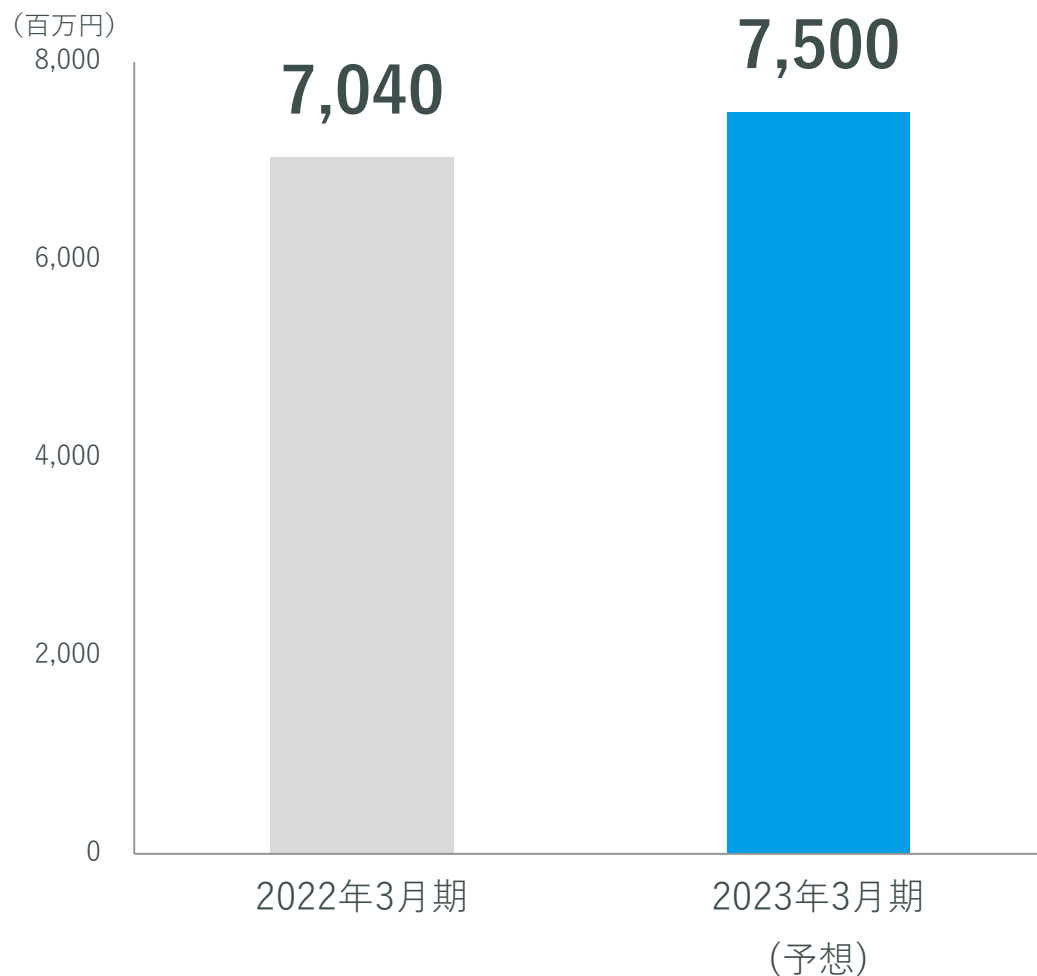


2023年3月期 業績予想の前提



- ✔ 地政学的リスクがあるものの、前期から続く好調な受注環境は継続すると想定
- ✔ 新サービスの提供を重要課題と位置づけ、サービス開発コストについても過去比大きく計上することを想定
- ✔ 事業拡大の為の海外高度ICT人財・スペシャリスト採用及び営業組織を強化

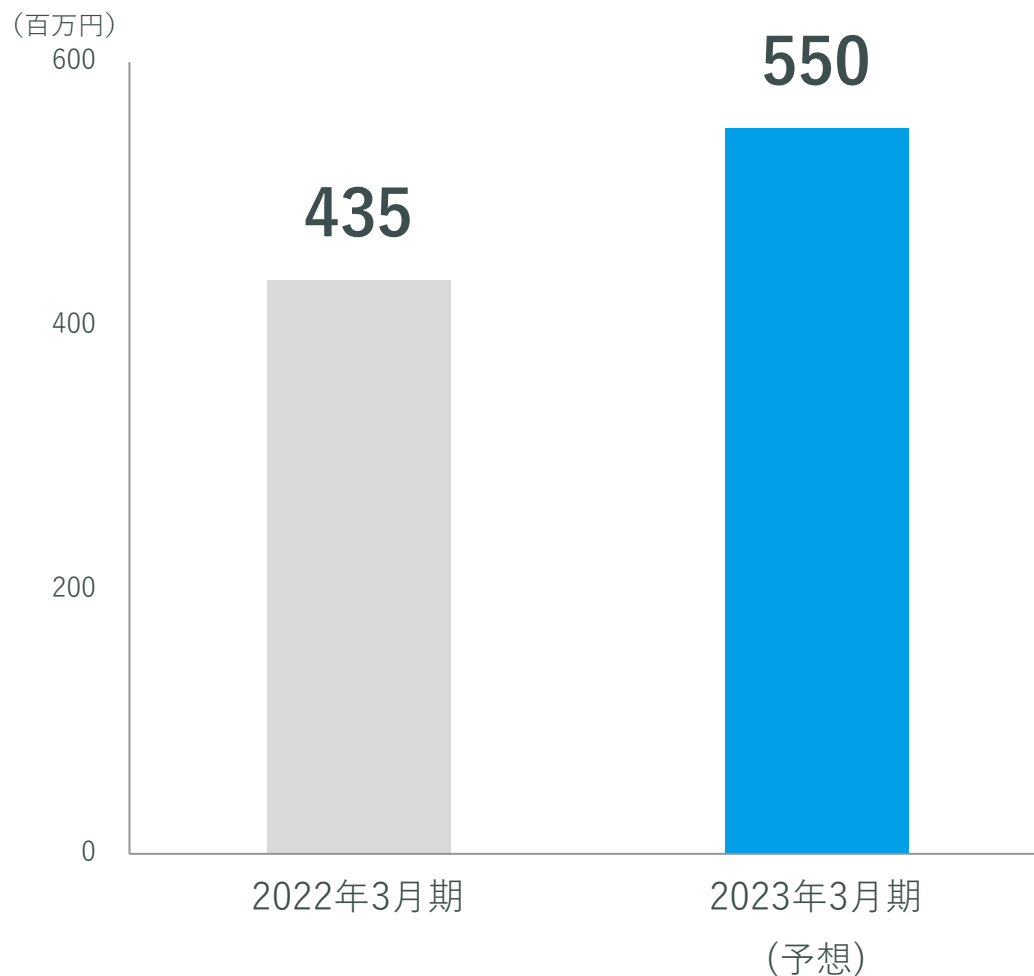
売上高



2023年3月期予想
売上高
75億円
(前年比6.5%増)

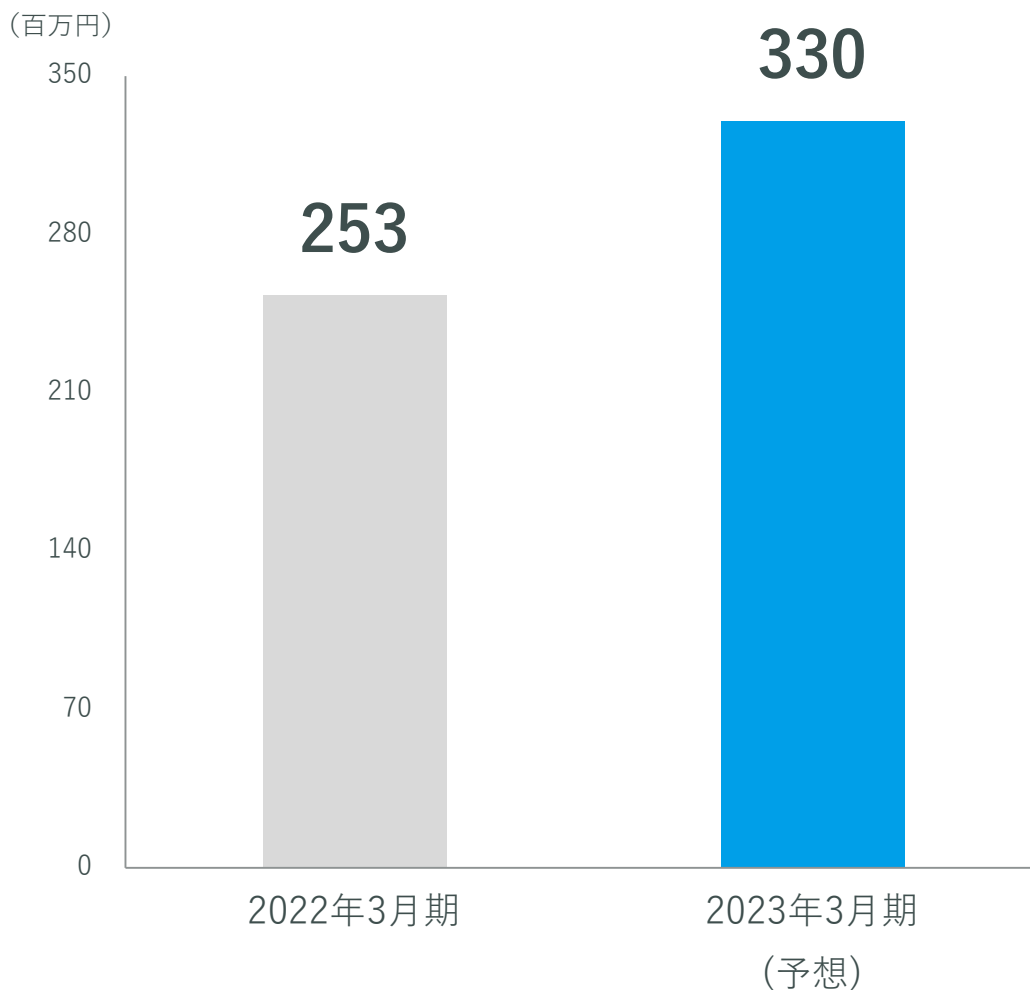


営業利益



2023年3月期予想
営業利益
5.5億円
(前年比26.3%増)

親会社株主に帰属する当期純利益



2023年3月期予想
純利益
3.3億円
(前年比30.4%増)



セグメント別 概略



教育ソリューション

- コンテンツ制作事業へ注力
- 新規ソリューション創出

ICTソリューション

- ダイレクトユーザー事業拡大
- リモート運用サービス
「Kyrios」の販売強化
- 不採算プロジェクトの削減活動

セグメント別 概略



西日本ソリューション

- 中部地域の事業拡大
- 地方部における
クロスセル・アップセル

ライフサイエンスサービス

- 医療ICT事業の拡大
- 医療介護DXソリューションの
創出

デジタルイノベーション

- セキュリティ事業の拡大
- 小売業向けソリューションの創出

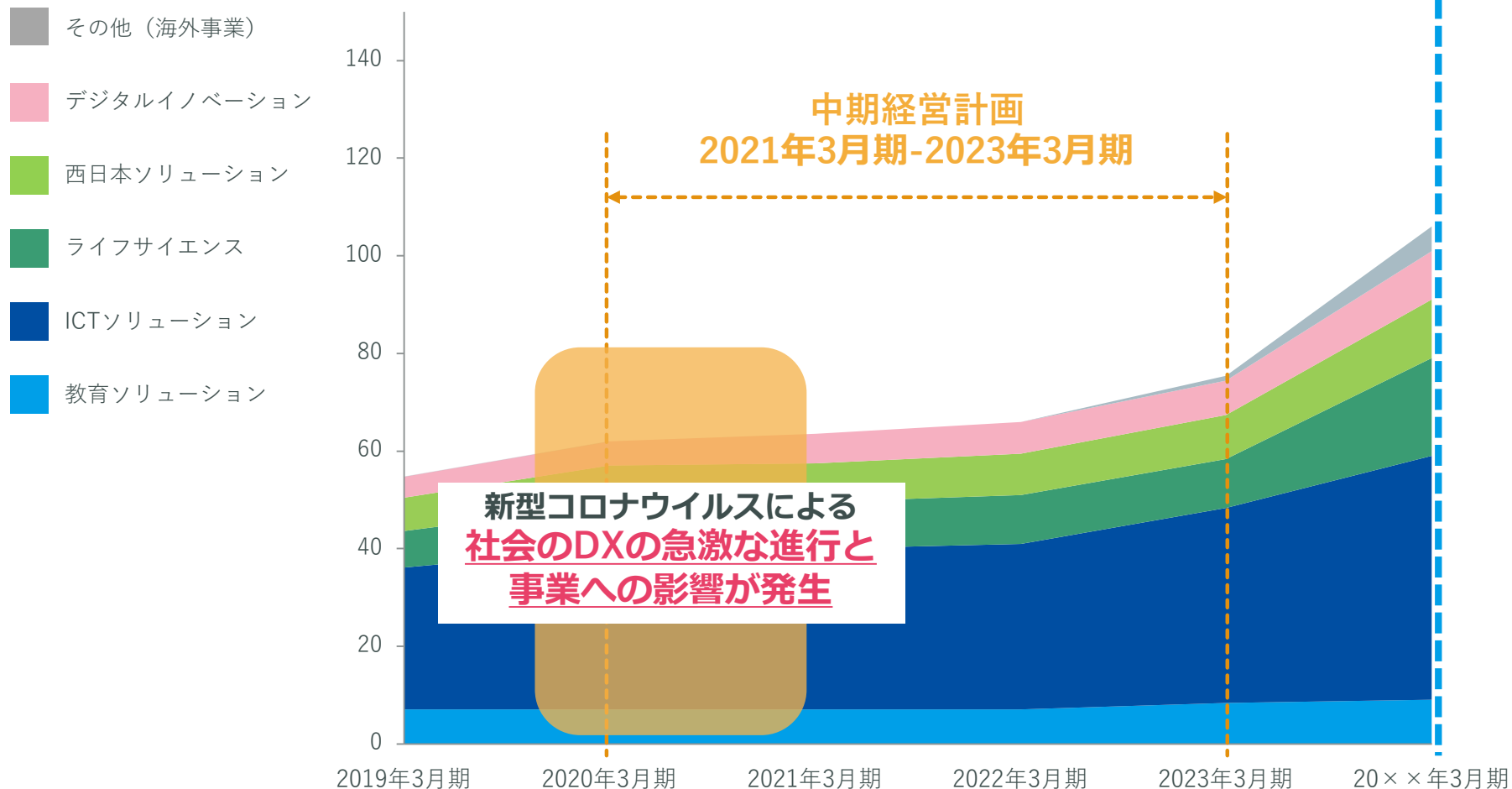
IV. 第一次中期経営 計画の進捗

第1次中期経営計画の位置づけ（再掲）



長期目標

営業利益 **10** 億円



第1次中期経営計画の概要（再掲）



第1次中期経営計画(2021/3→2023/3)

基本方針（長期目標）

労働集約型ビジネスから

知識集約型ビジネスへの転換をはかることで

中長期で **営業利益10億円** を目指す

➤➤ 最終年度目標

売上高

67-70 億円

営業利益

5.5-6.9 億円

第1次中期経営計画の概要（再掲）



第1次中期経営計画（2021/3→2023/3）

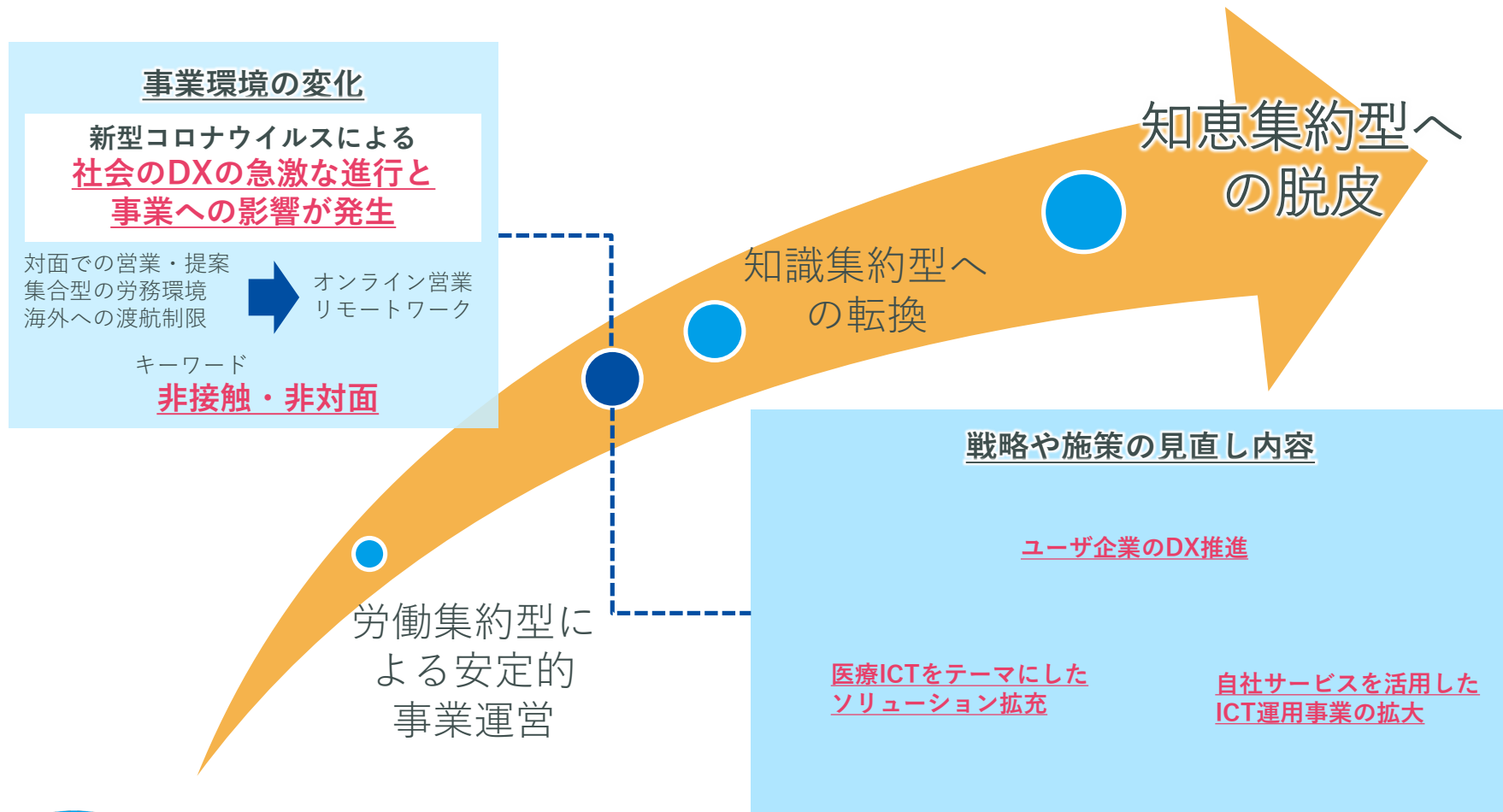
新型コロナウイルスによる
社会のDXの急激な進行と事業への影響が発生したが
最終年度の計画に変更はなし

(単位：百万円)	2021年3月期 実績 計画	2022年3月期 実績 計画	2023年3月期 予想 計画
売上高	63 62~65	70 65~67	75 67~70
営業利益	3.5 4.0~4.5	4.3 4.6~5.0	5.5 5.5~6.9

事業環境の変化と戦略の見直し（一部更新）



前提となる事業環境の変化を考慮し新たなステージである
“知恵集約型”のビジネス形態への飛躍を図る



参考資料



各事業セグメント売上高予想



(単位：百万円)	2022年3月期（実績）	2023年3月期	
		予想	前期比（%）
教育ソリューション	598	569	95.2%
ICTソリューション	3,176	3,265	102.8%
西日本ソリューション	1,025	1,143	111.5%
ライフサイエンスサービス	1,389	1,516	109.1%
デジタルイノベーション	850	1,004	118.1%
その他	0	0	-
合計	7,040	7,500	106.5%

各事業セグメント営業利益予想

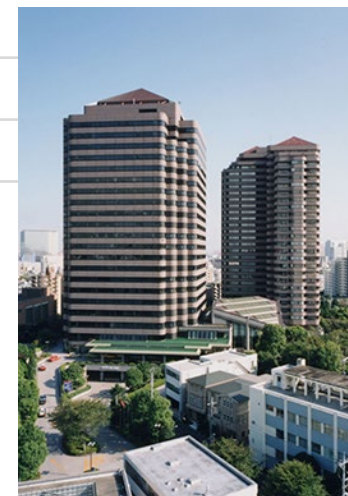


(単位：百万円)	2022年3月期（実績）	2023年3月期	
		予想	前期比（%）
教育ソリューション	124	193	155.3%
ICTソリューション	624	662	106.1%
西日本ソリューション	224	231	103.0%
ライフサイエンスサービス	156	256	164.6%
デジタルイノベーション	△39	△37	-
その他	△17	△18	-
全社	△636	△738	-
合計	435	550	126.3%

会社概要



会社名	JTP株式会社 JTP Co.,Ltd.
本社	東京都品川区北品川4-7-35 御殿山トラストタワー 14階
国内拠点	北海道、栃木、東京(本社)、大阪、福岡、愛知、京都
海外拠点	インド支店
施設	トレーニングセンター <ul style="list-style-type: none">御殿山トレーニングセンター (東京・品川) インテグレーションセンター <ul style="list-style-type: none">JTPインテグレーションセンター (東京・北八王子) テクニカルラボセンター <ul style="list-style-type: none">東京テクニカルラボセンター (東京・五反田)関西事業所テクニカルセンター (大阪・吹田)
資本金	795,475,000円
設立	1987年10月31日
従業員	435名 (2022年4月1日現在)
上場市場	東京証券取引所スタンダード 証券コード：2488 (2006年6月上場)
認定パートナー	Amazon Web Services APN アドバンスドコンサルティングパートナー LINE 公式パートナー IBM Silver Business Partner SoftBank AIエコシステム・パートナー



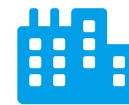
沿革



1987年	10月	日本サード・パーティ株式会社 設立
1992年	4月	本社にトレーニングセンターを設置、教育事業に進出
1994年	7月	東京テクニカルセンターを設置（現：東京テクニカルラボセンター）
1994年	11月	ライフサイエンス部門で化学分析機器サービス事業に進出
2003年	3月	ライフサイエンス部門で医療機器サービス事業に進出
2006年	6月	ジャスダック証券取引所に株式を上場
2011年	8月	ライフサイエンス部門で放射線事業（放射性物質測定機器の取り扱い）を開始
2012年	1月	放射能プレミアムドックセンターを開設
2012年	10月	世界標準のITスキルアセスメントテスト「GAIT」の提供を開始
2013年	6月	デジタルマーケティング事業に進出、「Wayin（ウェイイン）」の提供を開始
2014年	11月	グローバルIT人材育成支援の一環として、全国統一学生ICTテストにGAITの提供を開始
2015年	1月	ロボティクス事業に進出、ヒューマノイドロボット「NAO」に関するサービスを開始
2016年	11月	JTPインテグレーションセンターを開設
2017年	6月	AI事業に進出、「Third AI（サードアイ）」の提供を開始
2019年	4月	インド支店を開設し、インドでの事業展開を開始
2020年	5月	日商エレクトロニクス株式会社と資本業務提携を開始
2020年	12月	アースアイズ株式会社と資本業務提携を開始
2021年	4月	社名を「JTP株式会社」に変更



財務データ推移



(単位：百万円)

	2012/03	2013/03	2014/03	2015/03	2016/03	2017/03	2018/03	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3
売上高	5,164	4,597	4,708	4,661	4,743	4,634	4,748	5,472	6,245	6,310	7,040
売上原価・ 営業原価	4,500	3,885	3,955	3,902	3,918	3,731	3,746	4,408	4,998	5,197	5,818
売上総利益	663	711	753	759	824	902	1,001	1,063	1,246	1,112	1,221
販売費及び 一般管理費	551	649	672	582	587	707	749	824	775	761	785
営業利益	111	61	81	177	237	195	251	238	470	351	435
経常利益	102	58	89	191	234	136	258	247	483	382	470
当期純利益	△32	1	14	90	81	3	184	154	309	267	253

Connect to the Future

JTP 株式会社

この資料に記載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて作成しております
実際の業績は市場動向や業績情勢等の様々な要因等によって異なる可能性があります



© JTP Co., Ltd. All Rights Reserved.